

◎基本目標4 みんなで考え行動するまち

○基本施策4-1 環境教育・環境学習の推進

●施策4-1-1 自然・環境学習関連施設の事業の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 現状・評価	令和 7 年度 目標	担当課
自然環境学習に関する 行事等の年間実施状況 ※	21 回 466 人	12 回 248 人	16 回 316 人 評価：○	25 回 500 人	根本山自然 観察センター 鬼怒水辺観察 センター
自然環境教育に係る年間の 学校等団体利用状況 ※	56 団体 2,200 人	20 団体 521 人	38 団体 1,172 人 評価：○	45 団体 1,800 人	

※ 根本山自然観察センターと鬼怒水辺観察センターの両施設における実施・利用状況

【施策の展開状況】

・根本山自然観察センター、鬼怒水辺観察センターでは、施設区域の森林や水辺環境を保全し、その自然環境を活用した自然体験教室の開催や展示等により環境学習を推進します。

- 根本山自然観察センターでは、里山の生き物観察や調査、自然の恵みを素材に使ったクラフトづくりなど、一年を通して里山の自然に親しむ「しぜん体験教室」を14回開催し、延べ286人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、31団体828人ありました。
- 鬼怒水辺観察センターでは、水辺の生き物とふれあう「鬼怒水辺ふれあい観察会」を2回開催し、延べ30人の参加がありました。また、学校等の団体の利用は、7団体344人ありました。

・自然教育センターでは、市内小中学校の児童生徒が、鬼怒川河川敷の自然を利用した集団宿泊体験活動を通して、河川の環境学習を推進します。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、令和3年度の宿泊体験活動は未実施となりました。

・科学教育センターでは、小中学校の観察実験学習や市民の科学体験教室等の催しを通して、地球環境やエネルギーに関する学習を推進します。

- プラネタリウムでの投影において、真岡市から見える星空を映し出し、季節ごとの星や星座の解説を行いました。また、団体利用においては、利用した多くの団体が「星の特徴」や「月の動き」などの学習プログラムを利用し、天体についての学習を行いました。プラネタリウム一般公開日数13日(延べ39回)の実施で1,918名、プラネタリウム団体利用日数43日(延べ48回)の実施で1,902名が利用しました。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、令和3年度の市民の科学体験教室は未実施となりました。

・自然環境の保全のための重要地域について、学習できる資料整備を図ります。

- 平成28年2月に「第2次真岡市動植物実態調査報告書」を作成し、自然環境の保全を図るうえでの4つの「重要配慮地域」と4つの「配慮地域」を選定しました。また、普及版として作成したパンフレットを市役所内に配架しました。

- ・その他
 - にのみや野外活動センターは、鬼怒川に隣接した自然環境を生かし、野外活動体験をとおして自然・環境への理解を深める場となっています。令和3年度は、中学生以下82名、一般139名、合計221名（うち宿泊者68名）の利用がありました。
 - 水処理センターは、快適な生活環境の確保と河川の水質汚濁防止を目的として建設されました。毎年、市内の小学4年児童が施設見学に訪れ、水処理センターの役割や水の循環利用などの環境について学習します。令和3年度は、9校児童332名、引率26名、合計358名の見学がありました。

V. 根本山自然観察センター 令和3年度行事内 (14回開催、参加延べ人数286人)

開催日	行事名	参加人数
4月8日	おとなの自然観察～スマレを観察しましょう～	15名
5月1日～5日	根本山探検クイズ	111名
5月16日	春の生き物観察	19名
7月17日	オオムラサキを観察しよう	18名
8月22日	夏の虫とり名人になろう	中止※
9月20日	キノコのふしぎをさぐろう	中止※
9月25日	秋も虫とり名人になろう	中止※
10月17日	竹ぼっくりを作ろう	雨天中止
11月13日	水辺の生き物をすくってみよう	18名
12月12日	落ち葉のプールを作って遊ぼう	32名
12月25日	お正月飾りを作って飾ろう	16名
1月9日	カブトムシのすみかづくり	17名
1月16日	里山の生き物調査	22名
2月17・18日	大人のクラフト（キッチングッズづくり）	中止※
3月26日	早春の生き物を観察しよう	18名

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴う中止

W. 鬼怒水辺観察センター 令和3年度行事内容 (2回開催、参加延べ人数30人)

開催日	行事名	参加人数
6月20日	カイツブリの親子を見よう	17名
10月3日	赤トンボをつかまえよう	13名



鬼怒水辺環境センターでの活動



市内操業企業での環境学習会（大和リース）

Y. 科学教育センター 令和3年度行事内容

1. プラネタリウム公開内容 公開日数13日（延べ39回実施）、延べ1,918名利用

期 間	内 容
令和3年5月28日（土）～6月12日（土）	春のプラネタリウム一般公開・番組公開
令和3年6月26日（土）	プラネタリウム無料公開（県民の日協賛事業）
令和3年7月3日（土）、10日（土）	番組公開（2本立て）
令和3年10月23日（土）～12月11日（土）	秋のプラネタリウム一般公開・番組公開
令和3年12月27日（月）、28日（火）	冬休みプラネタリウム一般公開
令和4年1月22日（土）	冬のプラネタリウム一般公開

8月2日（月）～8月7日（土）、9月1日（水）、9月25日（土）～10月2日（土）、1月29日（土）～3月11日（土）の期間は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い未実施

2. 市民の科学体験教室等内容

8月8日（木）に予定されていた栃木県電波適正利用推進員協議会共催の電波教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い未実施

○基本施策4-1 環境教育・環境学習の推進

●施策4-1-2 環境学習の様々な機会の提供と支援

【環境指標】（評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善）

指 標	平成26年度 基準	令和2年度 実績	令和3年度 現状・評価	令和7年度 目標	担当課
ごみ減量座談会の実施回数	90回	10回	21回 評価：○	66回	環境課
環境学習会の実施回数	—	7回	12回 評価：○	16回	
芳賀地区エコステーション 施設見学者数	3,079人	1,022人	2,444人 評価：○	3,600人	
真岡市リサイクルセンター 施設見学者数	—	4人	69人 評価：○	450人	

【施策の展開状況】

・持続可能な開発のための教育（ESD）の視点に基づき、学校・地域などでの環境教育や環境学習の充実を図ります。

- 持続可能な開発のための教育（ESD）の視点は、新学習指導要領にも反映されており、小・中学校においては、幅広い教育活動において学習されています。特に小学校6年生の社会や中学校3年生の公民において、これまで学習・実践してきたことのみとめとして、持続可能な社会をめざす内容の学習を行っております。

・地域座談会を開催し、ごみ減量及び資源の循環についての理解を深めます。

☛ 施策 1-1-1 参照

・芳賀地区エコステーション・真岡市リサイクルセンターでは、施設見学を通して、ごみの減量化や 3R についての環境学習を推進します。

☛ 令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大対策を講じ、小学校の社会科見学を含め、施設見学者が令和 2 年度に比べ増加しました。49 団体延べ 2,513 名が施設見学を行いました。

施設見学者内訳 市内：21 団体 1,416 名、市外：28 団体 1,097 名

・国内初の内陸型火力発電所と連携し、施設見学を通して、エネルギーの大切さや地球温暖化防止についての環境学習会を推進します。

☛ もおか環境パートナーシップ会議と連携し、市内で稼働を開始した内陸型火力発電所において、工場の見学スペースを利用して地球温暖化防止をテーマに環境学習会 1 日間開催し、24 名の小学生親子の参加がありました。その他にも、市内で操業している企業（大和リース（株）栃木二宮デポ・関東工場、千住金属工業（株）栃木事業所）でも環境学習会を開催し、3 回 54 名の小学生親子の参加がありました。

・学校・保育所等の活動において、必要に応じて環境学習の協力を行います。

☛ 小・中学校では、「理科」や「総合的な学習の時間」等で、動植物の観察や調査、環境問題等に関する学習を行っています。また、小学 4 年生では、社会科の中で使用する社会科副読本「わたしたちの真岡市」を通して暮らしの中でのごみ問題や水の関わりについて学習しています。そのほか、全小学校（14 校）を対象として、子供たちのアグリ体験学習（農業体験学習）を実施しました。

☛ 大内東小学校と真岡西中学校では、学校林を活用し、総合的な学習の時間に自然観察や保全活動に取り組んでいます。

☛ 各保育所では、花などの植物や農作物を育て、収穫した作物を調理したり、メダカやダンゴムシなどの小動物とのふれあい体験を実施しました。

・こどもエコクラブの活動を支援します。

☛ 市内 1 団体 120 名（真岡児童館 やさしくラブ）が、こどもエコクラブに登録・活動しており、市は事務局として連絡仲介、広報支援などを行いました。

☛ 真岡児童館やさしくラブにおいて、これまでの活動が認められ、令和 3 年度においては以下の表彰を受賞しました。

- ・「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰 自然ふれあい部門（環境省 主催）
- ・野生生物保護功労者表彰 日本鳥類保護連盟会長感謝状（日本鳥類保護連盟 主催）
- ・2021 年度持続可能な社会づくり表彰 地域づくり活動賞（環境生活文化機構 主催）
- ・令和 3 年度輝く“とちぎ”づくり表彰 優秀賞（栃木県 主催）
- ・水・土壌環境保全活動功労者表彰 活動団体（環境省水・大気環境局 主催）
- ・脱炭素チャレンジカップ 2022 ニトリ最優秀夢・未来賞（地球温暖化防止全国ネット 主催）
- ・こどもエコクラブ 全国エコ活コンクール（壁新聞部門） 日本環境協会賞（日本環境協会 主催）

- ・市民活動推進センターでは、登録された環境学習活動団体の催し事開催等を支援します。
 - ☛ 登録されている9団体の催し事開催等を支援しました。

◎基本目標4 みんなで考え行動するまち

○基本施策4-2 環境保全活動の推進

●施策4-2-1 環境保全に関する情報の共有

【施策の展開状況】

- ・環境基本計画に関する年次報告書を作成、公表し、環境に関する情報の共有を促進します。
 - ☛ 年次報告書を市内企業・団体等に配布するほか、市ホームページに掲載しました。
- ・環境に関する学習会や催し事、環境保全に関するボランティア活動の情報を「広報もおか」、「ウィークリーニュースもおか」及び市ホームページ、並びにケーブルテレビ等で提供します。
 - ☛ 随時、提供しました。また、市内だけではなく、県内や県外にも発信される配布物やメディアにも情報提供を行いました。

○基本施策4-2 環境保全活動の推進

●施策4-2-2 各主体の環境保全活動の支援

【施策の展開状況】

- ・地域や市民が安心して環境保全活動を行えるよう、市は市民ボランティア活動に関する保険制度により、万が一の事故に備えます。
 - ☛ 真岡市民または市内でボランティア活動を行っている方等に対して、傷害事故と賠償責任事故について補償しています。
- ・市民活動推進センターでは、登録された市民活動団体の情報発信や活動の支援を行います。
 - ☛ 市民活動推進センターでは、年4回発行される広報紙コラボにおいて登録された市民活動団体の情報提供を行うと共にその団体の活動を支援しました。
- ・その他：各主体による環境保全活動としては以下のようなものがあり、市役所は事務局をするなどして、活動を支援しました。
 - ☛ 「真岡の自然を守る会」は、真岡市公民館真岡西分館を拠点に活動しており、令和3年度は鬼怒川・小貝川クリーン大作戦として自然教育センター周辺の河川敷清掃や「春の七草寄せ植え」の市内小学校等への配布を行いました。
 - ☛ 「真岡自然観察会」は、SAVE JAPAN プロジェクトに参加し、自然観察会や自然環境保全に関する啓発などの活動を行いました。
 - ☛ 「とちぎ元気な森づくり県民税事業」や「もおかの明るく安全な森づくり事業」では、地元住民で組織した管理団体により、下草刈りや清掃活動などの里山林の保全管理作業が行われました。（施策2-1-1参照）
 - ☛ 地域公民館活動では、花いっぱい運動を主催しました。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、写真審査を実施し、64館から申込がありました。
 - ☛ 西沼地区、宿中地区、赤羽地区、清水地区、東大島地区では、多面的機能支払交付金事業に取り組んでいます。各地区では、水路・道路の草刈り、土水路等の保全を行いました。

- 真岡工業団地総合管理協会の環境部会では、隔週水曜日、五行川及び鬼怒川に排出する工業団地からの総合排水にかかる水質調査と、環境パトロール及び工業団地内の一斉清掃をそれぞれ年1回実施しました。

○基本施策 4-2 環境保全活動の推進

●施策 4-2-3 協働による環境保全活動の推進

【環境指標】 (評価 ◎：目標達成、○：前年度より改善、△：前年度を維持、▲前年度から未改善)

指 標	平成 26 年度 基準	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 現状・評価	令和 7 年度 目標	担当課
協働による環境保全ボランティア活動に関心のある市民の割合※1	44.2%	44.0%	42.1% 評価：◎	40.6%	環境課
自然環境の保全活動に参加している市民の割合※	12.5%	28.2%	26.7% 評価：▲	30.0%	

※1 令和3年度市民意向調査による (対象者 1,245名)

【施策の展開状況】

- 市民、事業者、行政の協働による環境保全活動の推進を図ります。
 - 栃木県では、平成 28 年 3 月に「生物多様性とちぎ戦略」の改定を行い、平成 28 年度からの 5 ケ年の後期重点プロジェクトの一つとして「人、地域、企業、団体等の協働推進プロジェクト」を掲げており、企業と地域住民・保全活動団体とのマッチングによる社会貢献活動の推進を目指しています。本市では、平成 18 年 2 月に市民、事業者、市の協働による環境保全活動を実現する「もおか環境パートナーシップ会議」を設立しました。
- 「もおか環境パートナーシップ会議」の一層の機能強化を図り、環境保全活動を推進します。
 - 温室効果ガス排出量削減のため、生活の中で省エネ・低炭素型の「製品」、「サービス」、「行動」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を国民一人ひとりに促す取組みである「COOL CHOICE」に参画しています。
 - 大久保地区モデル事業部会では、「自然ふれあい園“大久保”」で、市民と企業の協働により園内の保全管理、ホタルの飼育、里山林の管理、花や野菜の栽培、動植物の調査を行いました。

令和 3 年度の登録人員等：個人 60 名、企業 13 団体

令和 3 年度の活動参加人数：延べ 610 人 (令和 2 年度：延べ 546 人)
 - 環境学習推進事業部会では、市内で稼働を開始した内陸型火力発電所と連携し、工場の見学スペースを利用して地球温暖化防止をテーマに環境学習会を 1 日間開催し、24 名の小学生親子の参加がありました。その他にも、市内で操業している企業（大和リース（株）栃木二宮デポ・関東工場、千住金属工業（株）栃木事業所）でも環境学習会を開催し、3 回 54 名の小学生親子の参加がありました。
 - 広報部会は、「自然ふれあい園“大久保”」の紹介リーフレットと、会報誌の作成を行いました。
 - これまでの活動が認められ、令和 3 年度においては以下の表彰を受賞しました。
 - 水資源功労者表彰 国土交通大臣賞（国土交通省 主催）
 - 栃木県みどりの功労者表彰 栃木県知事賞（栃木県 主催）